信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果（広報用）

プログラム名	**「グローバル人材養成」海外インターンシップ（マレーシア）**	
学部・研究科名	グローバル教育推進センター	
プログラム 実施期間	2018年8月18日 ～ 9月21日 ※派遣期間は学生により異なる	
研修先(国・都市・施設名)	マレーシア・セランゴール・マレーシアプトラ大学/現地日系企業	
参加者数 ： 6名		知の森からの支援者 ： 4名
プログラム概要	日本の産業界で課題となっていることの一つに、海外拠点（特に東南アジア）で活躍できる中核人材の質的、量的不足がある。それに応えるべく、本学の教育理念でもある「国際的通用力のあるグローバル人材の育成」のため、本年度より「グローバルコア人材養成コース」をスタートさせた。また、本学初の海外拠点である、信州大学マレーシアサテライト（マレーシアプトラ大学内）を活用し、本学のコラボラティブプロフェッサー（本学卒業生）のマレーシアプトラ大学、ノルヒサム教授のサポートを受けながら本プログラムを実施する。東南アジアでも、多様性（人種、宗教、文化など）を特に実感できるマレーシアで、現地大学（マレーシアプトラ大学）と日系企業にて研修をするニ本立になっている。東南アジアが将来大きな市場となることを実感し、そこで働く日本人駐在員、現地スタッフがどのようにして、競合他社に打ち勝って海外でビジネスを拡大しているか？どのようにコミュニケーションをとってビジネスを円滑に進めているか？どのような生活をしているか？大学では学べない、実際の仕事を見聞し、体験することで、学生が将来、海外で働くことに意欲的（海外志向）になることを目的としている。	

実施状況・成果

日系企業海外拠点において、日本人駐在員、現地スタッフから多くのことを学んだようだ。マレーシアにおいても、日本と同じレベルのサービス、品質を維持することを目標に日本人駐在員1人に対して、現地スタッフの部下が企業によっては100人以上いるような現場で、日本人駐在員が発揮するリーダーシップを見ることができたことは、大きな刺激になったようだ。また、日本人駐在員や現地スタッフと時間を共にさせていただくことも多く、海外で働くことの大変さや充実感、その他たくさんの経験談を聞くことができたのは、学生にとって、大きな財産となることだろう。また、どれくらいの語学力が海外の現場では必要とされているか、実感できたことは、帰国後の語学学習に対するモチベーションを高めることができたと思われる。
マレーシアプトラ大学では、各自テーマを設定して英語で質問票を作成することや英語でインタビューすることができた。授業聴講の依頼をして、英語での授業体験をするなど、積極的に行動した学生もいた。
これらの経験を通して、多くの学生が将来海外で働きたいという意欲を持てるようになったことは大きな成果といえるだろう。
渡航期間中、今年度は偶然にも、信州大学国際同窓会マレーシア支部会の開催があり、参加することができた学生は、信大卒業生の海外駐在員、留学生として信大で学んだマレーシア人と交流することができた。また、マレーシアには、多くの信大卒業生が駐在しており、休日にお会いして貴重な経験談をお聞きすることができた。

学生の声①-工学部　学生

マレーシアは多民族国家であるが、お互いの文化を尊重しあっており、自身の文化も非常に大切にしていると感じた。私は、多くの日本人が英語を話せないのは「外」を受け入れる姿勢が足りず、日本人ばかりで固まっているせいだと、この研修を通して強く感じた。自分とは違うというところに抵抗ではなく興味を持つことで、世界観が広がり、自然と英語でコミュニケーションを図ることができるのではないかということを多様な文化を背景とする人々とのコミュニケーションを通して学べたと思う。

学生の声②-総合理工学研究科　学生

私が実際にオフィスに入って感じたのは、会社という組織のイメージが今まで持っていたものとまったく違うということだ。オフィスでは上司部下関係なく和気あいあいとした雰囲気で楽しそうに仕事に取り組んでいる姿は、陽気なマレーシア人のお国柄が反映されているように思えた。堅苦しい社風の日本企業が海外に出て事業を行う際には、自分の会社の規則や、習慣をそのまま持ち込むのではなく、その国の文化や国民性を理解した上で、組織をマネジメントすることが何より重要であるということを学ぶことができた。

プラント見学

UPMで記念撮影